



地域とともに

継続的な地域社会への貢献

私たちは人々が求める真の貢献を実現するために、その地域に密着し、交流を深めることで問題を共有し、その解決に努めます。

★「心をつなぐプロジェクト」に参加して

2012年3月にイオンがグループを挙げてスタートした「心をつなぐプロジェクト」。その一環として東日本大震災の被災地におけるボランティア活動に参加した従業員が集まって座談会を行いました。

自分を見直すきっかけに

2014年9月に初めてボランティアに参加し、福島県南相馬市に行ってきました。家が残されているのに誰もいない区域の空気感は、テレビの画面では伝わらない恐ろしいものでした。苦労して生活している方を目の当たりにして、職場に帰ってからも「まだ自分にはやるべきことがたくさんある」と考えるようになりました。

営業統括部 北関東・新潟事業部
営業サポートグループ
佐々木 渉



役に立っているという実感

帰還困難区域でも花壇が整備されていて、住民の方が帰る日を待っていることが切実に伝わってきました。現地の方にはとても温かく接していただき、いろいろな意見交換もできました。人のために、自分のためにも役に立っていると実感できるからこそ、これだけ多くの方が参加しているのだと思いました。

人事統括部 人事部
小泉 基之



さまざまな人と心をひとつに

本社勤務になったのをきっかけに妻と参加しました。南相馬を訪れ、またみんなが安心して住めるようなまちにすることが会社としての使命でもあると思いました。各社から集まったさまざまな方とコミュニケーションしながらビニールハウスの解体をして、一体感や団結力を実感できたのもよかったです。



管理本部 システム部
三宅 悠太

自分の目で見える大切さ

震災当時は救援物資の調達係を務め、いちど自分の目で現地を見たいと思っていたんです。現地の方はどこまでも明るく前向きで、人間はここまで強くなれるのかと心を打たれました。社会人になりたての息子を連れていきましたが、彼も感じる場所があったようで、それを機にいろいろ話をする



ようになりました。特に若い人は何事も自分で体験することが大切だと思います。必ず得るものがありますから。

経営監査部長
宮島 幸雄

楽しんで支援する気持ち

これまでボランティアに5回参加しました。被災地への支援はディベロッパーや小売業にとって究極のミッションと言えるのではないのでしょうか。なにも自分を犠牲にする必要はないんです。経験値や視野を広げ、好奇心を満たすために行けばいい。普段はなかなか会えない他社のみなさんとも交流できて、現地でいただく魚もお酒もおいしい。私はあえて、ボランティアって楽しいよと言いたいですね。

開発本部 不動産管理部
一色 明仁



小野駅前郷プロジェクト「おのくん」

全国のイオンモールを通して大きな支援をいただいています。

震災後の東松島市へ多くの方に訪れていただきたい。そんな願いを込めて小野駅前応急仮設住宅でお母さんたちが作るソックモンキー「おのくん」は、おかげさまで全国に支援の輪が広がり、今では毎週末に1日100人以上の方が仮設住宅を訪れています。全国のイオンモールに「おのくん」の制作に必要な靴下と綿の回収ボックスを常設していただき、毎月約1,000体分の材料が届いています。

しかしこの仮設住宅も解体や縮小が進んでいるため、これまでの活動を継続するための新たな拠点として「空の駅」の建設をめざしており、こちらも全国のイオンモールで募金にご協力いただきました。

「おのくん」も「空の駅」も、多くの方に来てもらうことを目的としたプロジェクトです。新たな賑わいをつくり、若い人に安定して働ける場を提供したいですね。ぜひ東松島市にお立ち寄りください。



宮城県東松島市
小野駅前郷プロジェクト
共同代表 武田 文子様
新城 隼様



「復興」から「創成」へ。新しいまちづくりの支援を続けています。

震災後にイオン東北代表の任を預かり、被災地でさまざまなお手伝いをさせていただいています。4年が過ぎ、徐々にインフラも整備されてきましたが、地域のために頑張ろうと思ってくれる若い人たちが働く場所が足りないのが現実です。2014年3月にオープンしたイオンタウン釜石では、約700人の雇用を生み出して感謝の声をいただきました。雇用の重要性を再確認するとともに、まちをかつての姿に近づける「復興」から、新しい人たちが主役となり、自分たち

で考えて新しいまちをつくる「創成」への移行が進んでいると感じました。豊かな水産業をはじめ、地域のさまざまな事業に対して第3次産業の立場から新しいつながりをつくるお手伝いをしています。

イオン株式会社 顧問 イオン東北代表
イオンモール株式会社 取締役会長
村上 教行



★ 出店による地域経済の活性化

新しいモールのオープンには地域に数千人単位の安定した雇用を創出し、税収や人口の増加にもつながります。専門店も全体の約3分の1は地域からの出店になるよう配慮するほか、多くの仕事が地元企業に発注されるなど、広範囲に効果を及ぼします。

★ 地域の美しい環境を未来へ

「クリーン&グリーン」活動の一環として、毎月イオン・デーには、専門店従業員の皆さまとともに、モール周辺の歩道や公園、植樹帯などの清掃活動を行っています。



★ 公的サービスの拡充

郵便局、医療機関、自治体の行政機関、銀行、外貨両替機などのサービスを導入するほか、イオンホールを成人式や確定申告の会場、選挙の投票所などにご活用いただいています。



★ 2014年度 募金活動結果 (全国のイオンモール合計)

障がい者支援募金(2014年2月20日～2014年3月11日)	2,286,060円
イオン・エッセフ・ウォーターキャンペーン募金(2014年4月5日～2014年6月8日)	5,156,619円
24時間テレビ チャリティデー募金(2014年6月20日～2014年9月7日)	33,252,461円
広島土砂災害緊急支援募金(2014年8月26日～2014年10月31日)	7,222,006円
ミャンマー学校建設支援募金(2014年9月13日～2014年11月16日)	6,303,534円
合計	54,220,680円

社会貢献の拠点として多くのお客さまに募金活動にご協力をいただきました。



地域とともに

継続的な地域社会への貢献

「里親相談会」の開催支援

イオンモール寝屋川では、2014年から大阪里親連合会中央支部、大阪府中央子ども家庭センターが主催する「里親相談会」を開催しています。保護者と暮らせず、社会的な養育が必要な子どもたちを家庭に迎え入れるきっかけづくりとして成果を上げています。



保護者がいない、あるいは虐待などによって施設で暮らす子どもたちを、より家庭に近いところで育てるために、大阪府でも里親になっていただく方を募集しています。休日にご夫婦揃って気軽に話を聞ける場があればと考え、イオンモール寝屋川にご協力をお願いしました。初めて開催した日には11組の方が相談に訪れ、それをきっかけに研修や実習を経て実際に里親の登録を済ませた方もいらっしゃいます。

大阪府
中央子ども家庭センター
渡邊 弘子様



大阪では特に里親に登録する方が不足しています。「関心はあるが責任が重くて踏み切れない」とおっしゃる方も多いのですが、さまざまな専門機関が子育てをサポートしますし、養子として育てる里親だけでなく、一定期間ご家庭で育てる「はぐくみホーム*（養育里親）」、週末や夏休みだけ家庭で過ごす「週末里親」など、さまざまな関わり方があります。ぜひお気軽に相談にいらしてください。

*大阪府が公募し2015年に決定した愛称。

社会福祉法人 公徳会
里親支援専門相談員
吉川 昭代様



養子里親になったお母さまの声

不妊治療をあきらめて数年後、市の広報で募集を見たのをきっかけに主人と相談して生後6ヶ月の男の子を迎えました。養子であることは幼稚園の頃から折にふれて本人に伝えており、やがてお互い気になることもなくなりま

したね。両親や周囲も思っていたより自然に受け入れてくれました。反抗期の苦労はありましたが、それは実子でも養子でも同じこと。どんな経験も子どもがいてくれたからこそだと思っています。

イオンモールは地域のコミュニティセンターとしての役割も果たすべきだと考えていますので、何らかのかたちでお役に立てればと2015年も継続して開催していただきました。里親を待つお子さんがたくさんいることや里親制度について多くの方に知っていただけるよう、チラシでの告知や館内放送でもご協力をしています。ぜひお気軽にご参加いただければと思います。

イオンモール寝屋川 ゼネラルマネージャー
鷹城 直人



各地での地域貢献事例

1 イオンモール銚子

第35回 銚子ひびき連合会 大盆踊り大会

銚子の伝統ある夏の風物詩を、2011年よりイオンモール銚子の駐車場に会場を移して実施しています。2日間で約1,500名にご来場いただき、館内専門店による出張販売なども行いました。



2 イオンモール甲府昭和

第33回 イオンモール杯 山梨県ジュニア水泳競技大会

子どもたちを応援する地域貢献のひとつとして、県内のジュニアスイマー約550名が参加する大会のメインスポンサーとして運営に協力しています。モール館内で大会の写真展も開催しました。



3 イオンモール広島祇園

広島土砂災害の被災者を支援する 子どもの心のケア研修会

2014年8月に県内で発生した土砂災害に対する支援の一環として、子どもの心のケアについての研修会をイオンホールで実施。約100名にご参加いただきました。



4 イオンモール日の出

専用シミュレーターを利用した 自転車の安全運転講習

お子さまやシニアの方の自転車事故増加に伴って、専用のシミュレーターを使って危険予測力を高める安全運転講習を実施しました。
(協力：東京都・日の出町)



国連UNHCR協会の難民支援活動をサポート

活動の場を提供していただき、
多くのお客さまからご支援をいただいています。



国連の難民支援機関であるUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、紛争や迫害により故郷を追われた人々を国際的に保護・支援する活動を行っています。国連UNHCR協会はUNHCRの公式支援窓口として、広報、募金活動を担っており、広く民間からの支援を求めています。イオングループならびにイオンモール株式会社様には2010年から本格的なご支援をいただいています。館内の一角を無償でご提供いただき、お客さまと直接顔を合わせて難民問題についてお話しし、ご負担のない範囲で毎月の継続的な支援へのご協力を呼びかけています。陸続きの国境がない日本ではなかなか身近に捉えにくい問題ですが、多くの方が足を止めて耳を傾けてくださり、

2014年は全国のイオンモールで2,280名のお客さまからご支援をいただくことができました。中には、イオンモールでやっているから安心して協力できるとか、お子さんといっしょに話を聞きたいと言ってくださる方もいらっしゃいます。まずは多くの方に関心を寄せていただくことが大事なので、たくさんのお客さまにお会いできる場をご提供いただけるのは本当にありがたいことです。これからもより多くのモールで定期的な活動をさせていただければと考えております。

